平成 28 年度理学部卒業予定者アンケート

理学部では，平成 29 年 1 月から 2 月末にわたり平成 28 年度理学部卒業予定者を対象に大学生活全般に関するアンケートを実施した。今回の対象者は、平成 19 年度学部改組後 7 回目の卒業生に当たり、 257 名中 212 名から回答があった。回収率は 82.5%であった。「Ⅰ．分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 29 年度理学部の各コース長が担当した。また，「Ⅱ．集計結果」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

I. 分析と今後の教育へのフィードバック

【数学コース】

数学コース卒業予定者 57 名のうち 47 名から回答があった。アンケートの項目に沿って分析を行い、今後の教育へのフィードバックを述べる。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」では、最も多い回答は「友人との出会い」で 79% である。過去５年のアンケートでも 70% から 80%を超える数値で最多となっている。大学生となり、新しい交友関係を築き世界を広げて行くことができた学生が多いということだろう。続くものは「研究室での卒研ゼミ」と「課外活動」で共に 47% である。「研究室での卒研ゼミ」は昨年度までは 50% を超えており、最も高い時は 72% である。さらに、「授業」、「先生との出会い」は 34% であり、これも昨年度の 48% に対し、落ち込んでいる。また「高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの」では、最も多い回答は「課外活動」で 34% で、ついで「授業」の 26% となっている。昨年度は「授業」が最多で 36% であり、それ以前もほぼ 30% を超え、最も多い時は 57% であった。授業改善アンケートなどを行い、個々の教員が授業改善に努めている。それでも、悪くはないが良くもないということなので、さらなる授業改善を続けていかなければならないだろう。

教育研究施設（学習環境）については、満足・ほぼ満足を合わせると 91% である。これは過去５年間も 90% 前後であり、学習環境は問題はないようだ。

就職支援活動については、満足・ほぼ満足を合わせて 70% である。過去３年は 50% から 60％ 程度であるから、いくらかは改善されたと考えられる。

ボランティア活動には 40% の学生が参加している。また、参加した学生全員がその活動に満足・ほぼ満足している。参加する学生の割合は毎年おおよそ一定であり、そのほぼ全員が満足・ほぼ満足している。参加した学生には良い経験となっていると思う。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は、20～29 とした学生が最も多く 38% である。それ以上、それ以下の学生の割合はほぼ同じである。満足した理由は「親切で丁寧であった」が最も多く 74%

である。続いて「専門分野の実力がついた」が 53% となっている。満足できなかった授業の数は、9 以下とした学生が最も多く 49% であり、ついで 10〜19 とした学生が 32% である。満足できなかった理由の最多は「不親切でわかり難い授業だった」で 53% である。ついで、「実力がつかなかった」と「一方的な押し付け授業だった」が同数で 43% である。昨年度に比べ「不親切でわかり難い授業だった」と感じた学生の割合は 10% 以上増えている。また、「一方的な押し付け授業だった」と感じる学生の割合も若干増えている。一方で「実力がつかなかった」と感じた学生の割合は若干減っている。学生の立場に立って、わかりやすい授業を行うよう心がける必要があるだろう。

【標準履修モデル】

「基礎科目は，授業内容や難易度において適切配置されましたか」の問いには 96% の学生が「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答している。また、「専門科目は，授業内容や難易度において適切配置されましたか」の問いには 89% の学生が「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答している。さらに「教育目標と標準履修モデルが合致しているか」の問いには 94% の学生が「合致していた」または「概ね合致していた」と回答している。標準履修モデルには問題はないように思える。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほい」という要望に対して、「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 43% である。一方で、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げて欲しい」という要望に対して「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 30% である。三分の一程度の学生が専門科目として現状で良いと考えているのだろうか。少し高い目標に学生を導くような授業を考える必要があるかもしれない。

「社会に出て役立つことを授業盛り込んでほしい」という要望に対して、「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 36% である。それらの回答の学生が具体的に考えていることは次のようなものである。「議論やプレゼンテーション能力」「論理的な構成方法」「他人と専門科目に関して話をすること」：これらについてはセミナーや卒論発表会の準備などでより深く指導して行くことが一つの方法であるかもしれない。「社会人としてのマナー」「地域との関わり」「社会人経験者からの経験談」：これらは専門教育との関わりは薄いように思える。どのような機会を学生に与えるかは学部教育だけでは難しいように思える。

【成績評価】

成績評価は「適切であった」または「概ね適切であった」の回答の割合が 87% である。成績評価はほぼ問題がないと考える。

【授業改革】

数学コースが解説している授業科目数と内容が適切かとの問いには一人を除き「適切である」または「概ね適切である」と回答している。その一人は数学科プライマリの授業が不足していると感じている。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切かとの問いには一人を除き「適切である」または「概ね適切である」と回答している。ほぼ問題なく機能していると考える。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

「レポートに力を入れた授業や講義取り組んでいだけると嬉しい」「話す機会が増えるような授業があればいと思う」という自由意見から、単に聴講するだけの授業に満足していない学生がいることがわかる。受講科目の感想における分析でも述べたように、教員の独りよがりでない、学生の要望を汲み取った授業形態を考えなければいけない。

【物理科学コース】

平成24年度、25年度、26年度、27年度、28年度の5年分のアンケート結果を比較し、それに基づいて分析を行い、今後の物理科学コースの教育等にどう生かしていくかについて考える。平成24年度、25年度、26年度、27年度、28年度の物理科学コース卒業予定者15名、24名、20名、28名、22名のうちそれぞれ4名(27%)、12名(50%)、19名(95%)、21名(75%)、18名(82%)から回答を得た。以下で各年度のパーセントを（24年度、25年度、26年度、27年度、28年度）で表すことにする。平成24年度は回収率が少ないために参考程度の取り扱いとした。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、業研究に密接に関係する最も重要な「研究室での卒研やゼミ」（58%、74%、90%、86%、56%）、「先生との出会い」（75%、42%、42%、71%、50%）である。両者とも昨年度と比べて急激に減少している。物理科学コースの卒研指導の基本方針は自発性を育むということである。そのために，学生の自由を尊重している。これが裏目に出たのかもしれない。個々の学生に応じた自由の度合いの調整に取り組まなければならない。「友人との出会い」（75%、58%、58%、57%、67%）は約65%程度で比較的高い満足度である。授業については「高知大での勉学や生活で満足できたもの」（50%、33%、26%、48%、22%）と昨年度の比較的高い満足度から急減し低い数値になっている一方、「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」（0%、25%、26%、33%、39%）は徐々に増加している。 これらの結果を総合的に判断すると、各教員は研究室の教育だけでなく授業の向上に向けたさらなる努力が必要であろう。課外活動を満足できるものと回答した学生は(50%、33%、26%、38%、33%)とほぼ横ばいであるが，満足できないものの(25%、25%、16%、33%、17%）と急激に減少しており，大学で力を入れている学生への取り組みの成果が表れているのかもしれない。

教育研究施設（学習環境）についての満足度は、満足、ほぼ満足を合わせると（90%、92%、84%、71%、89%）と夜会満足度となっている。教育研究施設（学習環境）はほぼ整っていると考えて良いであろう。

高知大学の就職支援活動については、満足、ほぼ満足を合わせると（36%、50%、42%、79%、48%、61%）であり、大きな波があるが本年度は向上した。景気の向上，就職委員の取り組み，就職室の支援が交換したのであろう。

ボランティア活動への参加は（0%、8%、42%、29%、22%）と数値的には高くはないが、教員はボランティア活動の支援をほとんどしていないことから判断すると、適当な数値であろう。しかし、満足、ほぼ満足と答えた学生はうち（NA、100%、75%、83%、100%）であり満足度は非常に高い。

【受講科目の感想】
満足できた授業の数は４０以上（25%、17%、16%、24%、11%）、３０−３９（0%、25%、16%、14%、6%）、２０−２９（0%、25%、32%、38%、39%）、１０−１９（25%、33%、21%、19%、33%）、９以下（50%、0%、16%、5%、11%）となっている。年度によってばらつきがあるが、満足できた授業の数が３０以下の割合が高い。満足できた授業の数が３０以上については、一定数確保できていると思われる。満足した主な理由は、「専門分野の実力がついた」（100%、75%、37%、52%、50%）、「親切で丁寧な授業であった」（100%、58%、74%、71%、39%）、「教員の熱意が感じられた」（25%、42%、21%、38%、22%）であった。満足できなかった授業の数は、４０以上（0%、0%、0%、0%、6%）、３０−３９（0%、0%、16%、5%、11%）、２０−２９（0%、8%、11%、19%、17%）、１０−１９（30%、17%、32%、24%、22%）、９以下（100%、75%、42%、52%、44%）となっている。満足しなかった主な理由で比較的多かったのは、「実力がつかなかった」（50%、67%、42%、33%、61%）であり，ついで「不親切でわかり難い授業だった」（0%、33%、32%、24%、33%）、「一方的な押し付け授業だった」（50%、33%、32%、29%、22%）となっている。

受講科目にはおおむね満足しているものの、授業に対する不満の声も若干あり、さらに工夫を凝らした学生に満足を与える授業を行う努力が必要である。

【標準履修モデル】
基礎科目の内容や難易度について満足、ほぼ満足を合わせると(75%、92%、89%、81%、89%)、専門科目の内容や難易度については(75%、92%、74%、86%、89%)であり、多くの学生が肯定的にとらえている。教育目標と履修モデルについて合致していたかについては肯定的な回答が(75%、83%、79%、90%、89%)と高い満足度を維持しおり、標準履修モデルは適切であると思われる。

【専門科目への要望】
「より高度な授業内容を実施してほしい」、「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対しては、どの年度もそう思う者とそう思わない者がだいたい半分ずついる。また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対し、肯定的な回答は(25%、58%、42%、38%、50%)であり、やや減少傾向にあったが本年度は増加した。高度な知識を求める学生が多くなってきていると思われる。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、肯定的な回答が(50%、42%、26%、33%、44%)であり，近年増加傾向にある。大学の方針を反映して社会に出て役立つことを授業に盛り込む工夫は行う努力は行うべきであろう。

【成績評価】
成績評価の方法が適切かについては、否定的な回答が(75%、25%、32%、24%、17%)と，減少傾向にあり，これは教員の努力によるものであろう。

【授業改革】
授業科目数と内容が適切かについては、足りないという回答が(25%、25%、5%、10%、0%)となり，学生のニーズに応じた科目構成になっていると思われる。

【アドバイザー教員制度】
アドバイザー教員の指導・支援が適切かについては肯定的な回答が(75%、89%、90%、95%、100%)と良好である。これは、最近大学での取り組みが強化され、教員の意識も向上したことが理由であろう。

【自由意見】
自由な教育と講義についての肯定的な意見があった。否定的な意見として，時間割の問題（専門科目がとりにくい，午前と午後のバランスが悪い）が指摘された。「自由」は物理科学コースがもっとも力を入れていることであり，今後も方針を変える必要はないであろう。時間割に学生の意見を組み込むことは重要であろう。

【分析と今後の教育へのフィードバック】
アンケートの分析で浮かび上がったことは、本年度は学生の勉強や研究に対して取り組む姿勢が低下したことである。これは、社会の高度化に伴って社会の求める人材「自発的」であり「高度な基礎力」を有する学生であることから考えると憂慮すべきことである。これは，学生の資質によるところが大きいかもしれないが，教員は学生に応じた柔軟な姿勢で臨むことが必要である。授業に関してもほぼ満足が得られているようであるが、満足できない割合も一定数いる。これに対しては、最近大学で強化された授業向上への取り組みを活用して、各教員が一層の努力を行っていく必要があるが，科目数の不足に関しては教

員数の減少で難しいところがあるが、相互授業参観などを通して科目間の調整等を工夫していきたい。

【化学コース】

平成24-28年度の5年間のアンケート結果を比較・検討した．各年度の回答率は， H24：94%（15/16），H25：24/21（114%），H26：19/15（127%），H27：5/14（35%），H28：18/17（106%）であった．

以下で各年度のパーセントを（24年度，25年度，26年度, 27年度, 28年度）で表すことにする．なお，H27年度は回答者が５名と少なく，一人当たり20%と回答率が高くなる点を注意し，参考として欲しい。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の１位と２位は，5 年間を通じて「友人との出会い」(80%，58%，74%, 100%，83%),「研究室での卒研やゼミ」(67%，46%，37%, 40%, 50%）であり，研究室での研究活動の評価が 50%と平均的な数値に回復してきている．また,「授業」(27%，21%，16%, 0%, 17%）は, 20%前後で減少傾向にある．一方,“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち,「授業」は 13%，42%，58%, 40%, 56%となっており，年度ごとにばらつきはあるものの，恒常的に 50%前後で高い．授業アンケートや FD など授業改善に向けたより一層の努力が求められる．また, 注意を要する傾向として,「先生とのトラブル」(13%，7%，0%, 20%, 11%),「友人とのトラブル」(20%，4%，5%，20%，6%）が極わずかであるが生じている。人間関係をうまく構築できない学生が増加しつつ現状から，今後はアドバイザー教員制度等を通じたコミュニケーション作りなど, 孤立化を防ぐ対策が望まれることから，コースとして専門授業での欠席数を毎学期第８週目に調べ対応し続けている。

“教育研究施設（学習環境）”についての満足度は, 満足とほぼ満足を合わせると93%，79%，64%, 80%, 45%であった．毎年減少し，本年度50%以下なっている点は気がかりであるが，学習環境は十分に整っていると考えられる．“高知大学の就職支援活動”については,「満足できた」と「満足できなかった」の回答が， 60%/20%, 51%/41%, 37%/16%, 40%/0%, 22%/17%であった. ここ数年の厳選採用を反映しての結果と思われるが, 様々な就職支援活動への低い出席状況を考え合わせると, 個人的な細やかな対策が必要であると思われる．“ボランティア活動への参加”について，「ある」（53%，13%，32%, 0%, 22%）は，数値的にはそれほど高いとは言えないが毎年若干参加している．H27年度は回答者が少なかったことと化学コースの場合，演習・実験などに費やされる時間が多く，ボランティア活動に時間を割く余裕がないことが考えられる．

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(20%，17%，5%, 0%, 17%)，30-39(7%，29%，11%, 0%, 17%)，20-29(40%，13%，32%, 60%, 33%)，10－19（27%，33%, 21%, 20%, 22%），9以下（7%，8%，32%, 20%,11%）となっている．年度によってばらつきがあるが，年度を

経るごとに満足できた授業の数が平均的な値になっている．“満足した理由”については，「親切で丁寧な授業であった」（73%，67%，42%, 60%, 25%），「専門分野の実力がついた」（53%，58%，42%, 40%, 43%），「教員の熱意が感じられた」（20%，33%，16%, 20%, 11%）となっており，H28年度は「親切で丁寧な授業であった」が大きく減少した.“満足できなかった授業”の数は, 40以上(0%, 0%, 11%, 40%, 17%), 30-40(0%, 13%, 5%, 0%), 11%, 20-30(0%, 20%, 32%, 20%, 22%), 10-20(40%, 13%, 21%, 0%, 11%), 10以下(60%，54%，32%, 40%, 39%)となっている．“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」（73%，58%，58%, 80%, 67%），「一方的な押し付け授業だった」（47%，38%，58%, 40%, 28%），「実力がつかなかった」（33%，33%，16%, 40%, 44%）などと比較的高い，授業によって評価が分かれた結果であると判断されるが実力がつかなかった授業が高い数値になっている点は授業ごとにさらなる改善が求められる．

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について，いずれも肯定的な回答が，毎年80%を超えている．“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても，肯定的な回答(87%，83%，90%,100%, 94%)が得られている．

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して，より高度な授業を積極的に望む回答をした人は 0%, 13%, 16%, 40%, 22%であった．また“難しい授業が多すぎるので，もう少しレベルを下げてほしい”という要望に対して，否定的な人は 74%，75%，69%, 0%, 56%であり，例年全体的に現状の授業レベルを下げてほしいと望む人が多かった．“実験実習の時間を増やしてほしい”と希望する人は 0%，54%，53%，20%，72%と減少していたが，H28 年度は要望が高まった．一方で，“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”と希望する人は， 53%，15%，57%, 40%, 33%と減少傾向であるが，工学的なものづくり，ビジネスマナー，敬語など具体的な要望に関する記述がある．社会に出て役立つ実践的な授業の要望が一定数望んでいる．

【成績評価】

“成績評価”については，肯定的な回答が(87%，92%，63%, 80%, 83%)とH26年度のみ減少したが例年概ね肯定的である。ただし，適切でない授業もあるとの指摘もあるので各授業で成績評価の明確な基準を学生に伝えることも重要と思われる．

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については，肯定的な回答(100%，79%，84%, 100%,84%)が大勢を占めている．

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については，肯定的な回答が87%，88%，89%，60%，89%であり，多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである．

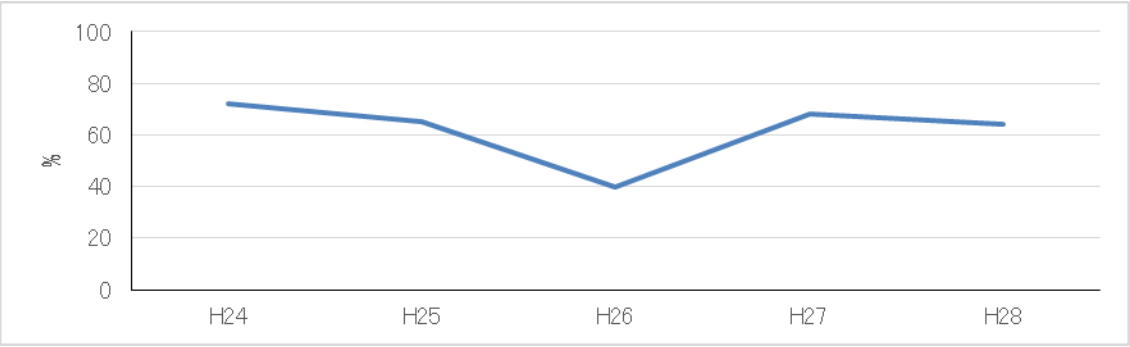
【自由意見】

理学部の教育や高知大学理学部全般について，SciFinderの利用できない点が複数あり，また研究費の増額や研究設備の要望があった。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来，教員の FD および授業アンケートやピア・サポートの実施に加え，老朽化した学生実験室の改修工事などソフト＆ハードの両面で教育環境の改善がなされているが，改修後に入学している 26 年度以降学生は満足度が落ちている．また，特に授業のレベルや進め方について，「親切で丁寧な授業であった」，「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答や研究室での卒論やゼミに対する満足度が減少しているが，専門分野の実力がついた」は H28 年度大きな変化はない．また授業について「不親切でわかり難い授業」，「一方的な押し付け授業だった」，「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も少なからず存在している．これらを総合的に判断すると学生の勉学意欲を高め，特に学習習慣を身に付けていない学生に対するケアによる学力のボトムアップを図る必要がある．一方，現状の授業レベルを維持しながら，深淵な知識を獲得できる授業を展開し，より高度なレベルをめざす学生の要望にこたえる工夫も引き続き必要である．また，新たな傾向として先生のみならず友人との人間関係に悩む学生が増えており，大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生を早期に発見し，救済する支援システムの構築が望まれる．

【生物科学コース】

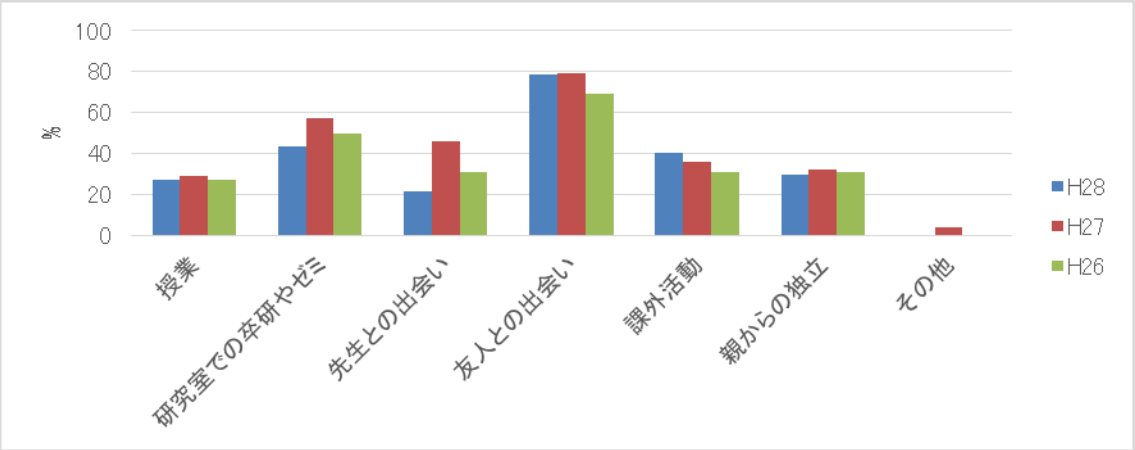


平成 28 年度の生物科学コース卒業予定者は 58 名で，そのうち 37 名からアンケートが回収された．回収率は 64%であった．平成 26 年度は回収率 40%と低調であったものの，平成 27 年度は例年並みの 68%となり，本年度はやや下がったものの平成 25 年度に近い値となっていた．

以下，質問項目がほぼ共通なアンケートを実施した，平成 26 年度からのデータと比較する．

【全般的な質問】

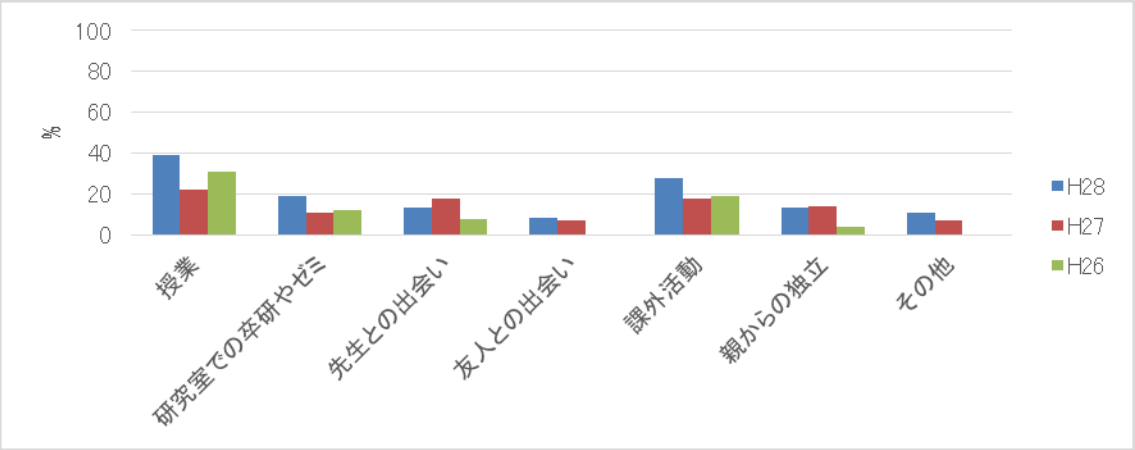
・高知大学での勉学や生活で満足できたものを選んでください．（複数回答）



回答の多い順に「友人との出会い」(29 件，75%)，「研究室での卒論やゼミ」(16 件，43%)，「課外活動」(15 件，41%)，「親からの独立」(11 件，30%)，「授業」(10 件，27%)，「先生との出会い」(8 件，22%)であった．「友人との出会い」を回答した学生がもっとも多いことから，おおむね満足できる友人関係の中で学生生活を送ったものと考えられる．

過去のデータと比較すると，平成 28 年度は「研究室での卒論やゼミ」および「先生との出会い」の割合が低下傾向を示していた．

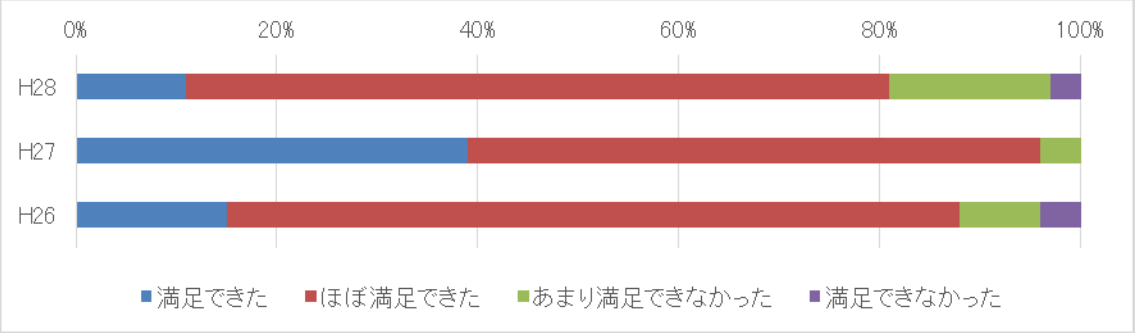
・高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを選んでください．（複数回答）



回答の多い順に「授業」(14 件，38%)，「課外活動」(10 件，27%)，「研究室での卒研やゼミ」(7 件，19%)，「先生との出会い」「親かからの独立」(両方とも 5 件，14%)，「友人との出会い」(3 件，8%)であった．

過去のデータと比較して，多いものからの順番は類似しているものの，本年度は「授業」「研究室での卒研やゼミ」「課外活動」の回答数が増加していた．

・教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか

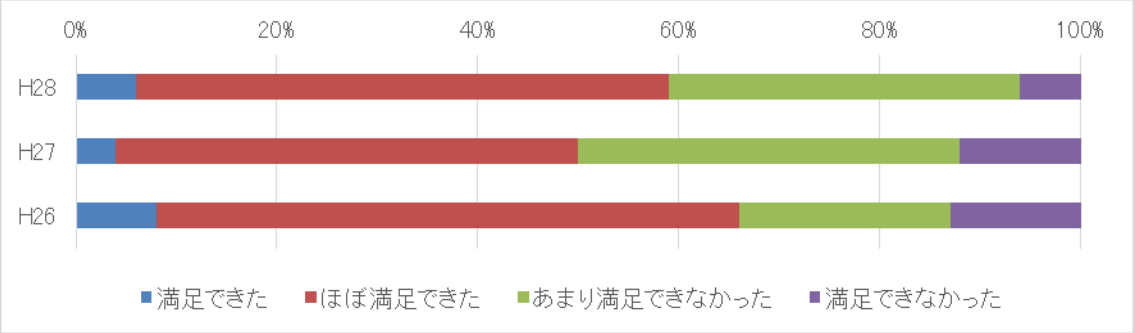


「満足できた」11%,「ほぼ満足できた」70%,「あまり満足できなかった」16%,「満足できなかった」3%であった.「満足できた」と「ほぼ満足できた」と感じた学生は 81%と高く,学生の要求をある程度は満たしているものと考えられる.

一方で,過去のデータと比較すると,平成 28 年度は「あまり満足できなかった」と「満足できなかった」を合わせると 19%に達していた.

ここまでのデータから,「研究室での卒論やゼミ」および「先生との出会い」の満足度がやや低下し,「授業」や「研究室での卒研やゼミ」への不満,研究施設(学習環境)への不満の割合が増加していることが明らかとなった.特に近年,生物科学コースは学生数が多く,教員と密接に接する機会が相対的に低いことが考えられる.また,研究室も狭隘な状況にあることも無視できない要因であろう.

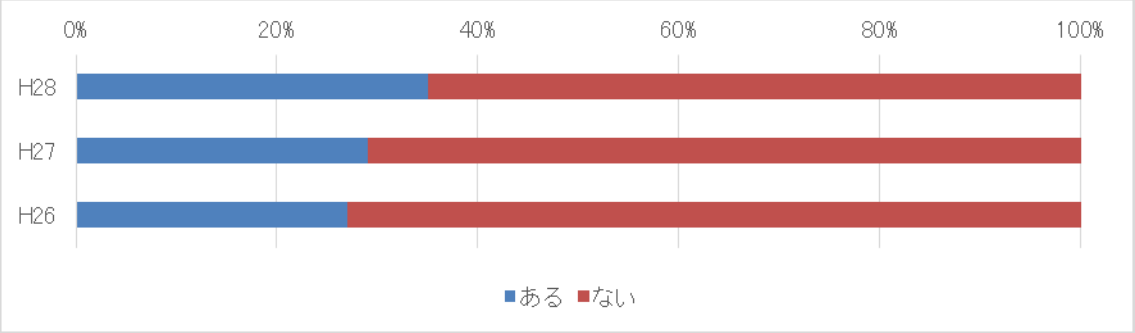
・高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか



「満足できた」6%,「ほぼ満足できた」53%,「あまり満足できなかった」35%,「満足できなかった」6%であった.過去のデータと比較し,「満足できなかった」人の割合は減少しているものの,「満足できた」人の割合は 6%と低い.

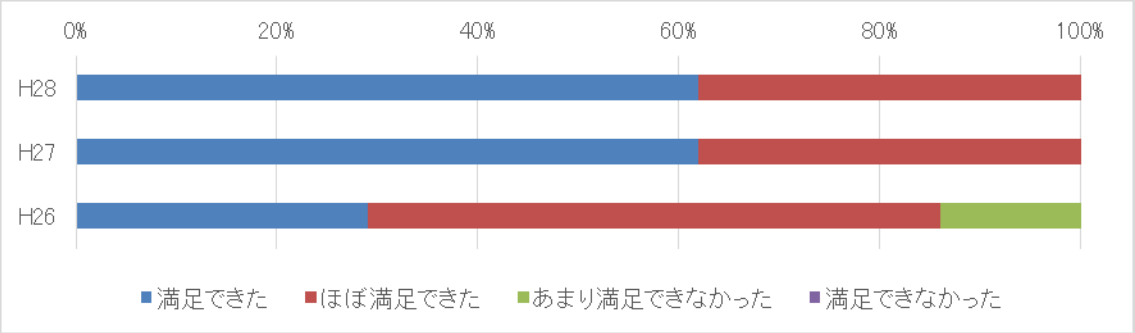
過去のデータと比較し,大幅な変化は認められないものの,就職支援活動に何らかの不満を持っている学生が 41%に達していることは無視できない課題であろう.

・在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか



「ある」35%,「ない」65%であった．過去のデータと比較し，わずかながら「ある」の割合に増加傾向が認められた．

・「ある」と答えた方に質問します．その活動は満足いくものでしたか

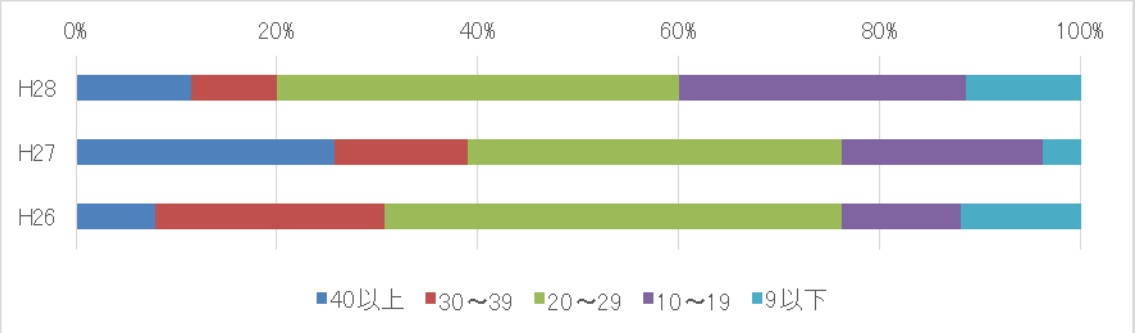


「ある」と答えた学生は 13 名で，このうち「満足できた」62%,「ほぼ満足できた」38%．であった．昨年度と同様の結果となっていた．

ボランティア活動については，参加者数はまだ少ないものの，参加者の満足度は高い．学生にとっては良い経験の場となっているものと思われる．

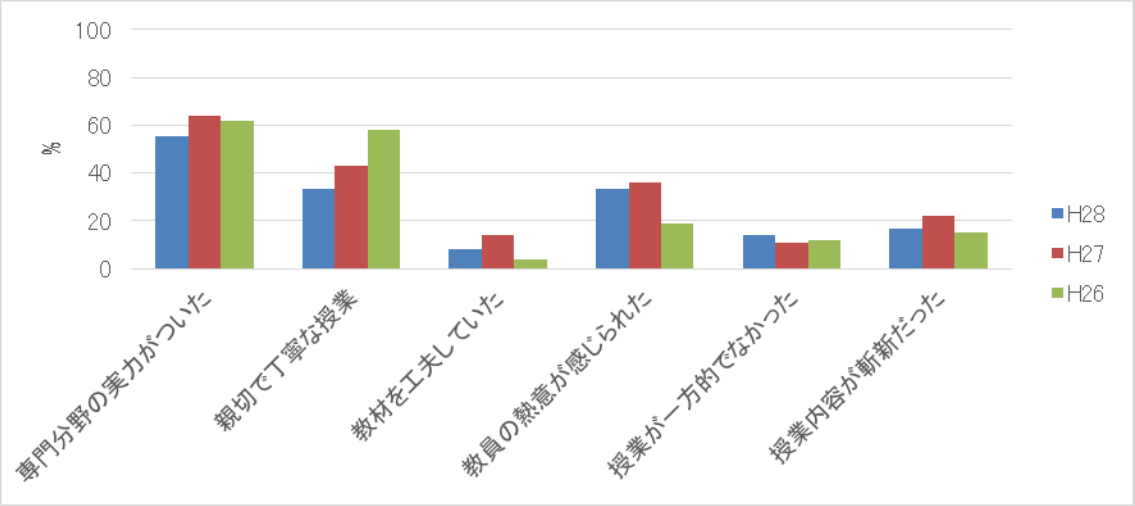
【受講科目の感想】

・あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）の印象をお聞きします．満足できた授業の数はおよそいくつでしたか．



「40 以上」11%,「30～39」9%,「20～29」40%,「10～19」29%,「9 以下」11%であった．過去のデータと比較し，平成 28 年度は「10～19」の割合が大幅に増加し，「9 以下」を合わせると 40%に達していた．

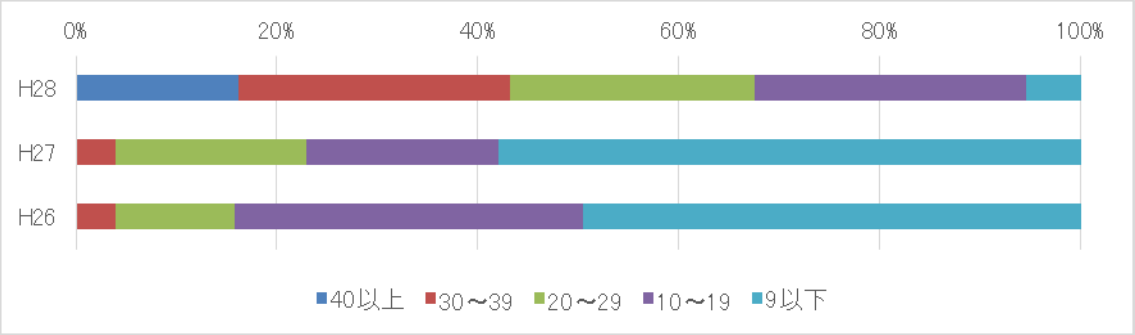
・満足した理由を選んでください．（複数回答）



「専門分野の実力がついた」20 件 56%，「親切で丁寧な授業」12 件 33%，「教材を工夫していた」3 件 8%，「教員の熱意が感じられた」12 件 33%，「授業が一方的でなかった」5 件 14%，「授業内容が斬新だった」6 件 17%であった．

過去のデータと比較すると，「親切で丁寧な授業」が低下傾向を示していた．

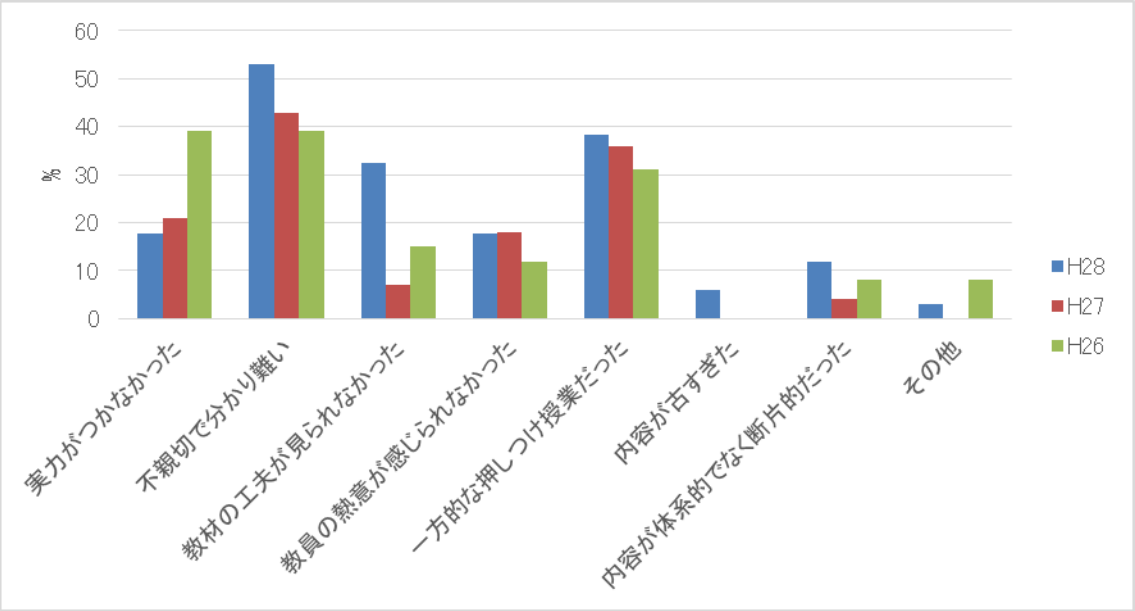
・理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち，満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか．



「40 以上」16%，「30～39」27%，「20～29」24%，「10～19」27%，「9 以下」5%であった．

過去のデータと比較すると，平成 28 年度は「9 以下」が大幅に減少するとともに「40 以上」や「30～39」が大幅に増加していた．

・満足できなかった理由（複数回答）



「実力がつかなかった」6 件 18%,「不親切で分かり難い」18 件 53%,「教材の工夫が見られなかった」11 件 32%,「教員の熱意が感じられなかった」6 件 18%,「一方的な押しつけ授業だった」13 件 38%,「内容が古すぎた」2 件 6%,「内容が体系的でなく断片的だった」4 件 12%,「その他」1 件 3%であった.

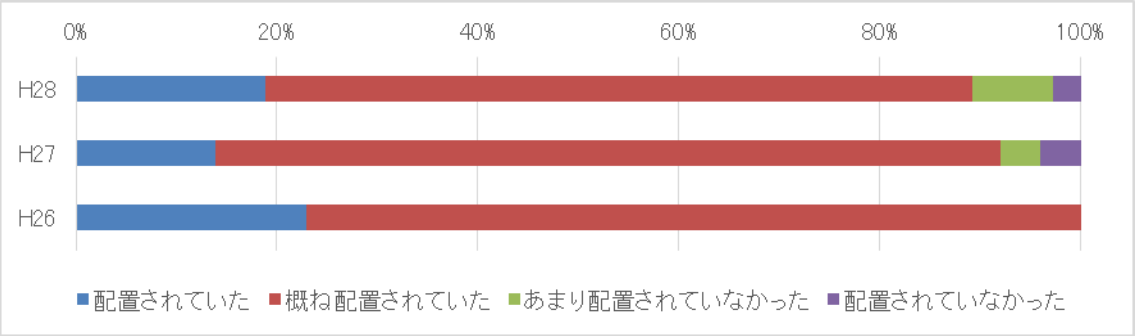
過去のデータと比較し, 平成 28 年度は「教材の工夫が見られなかった」の割合が大幅に増加し,「不親切で分かり難い」も増えていた. 一方で「実力がつかなかった」は減少していた.

ここまでの結果から, 平成 28 年度の学生は, 満足できなかった授業数の割合がこれまでになく多かった. その理由として「不親切で分かり難い」,「教材の工夫が見られなかった」などを挙げていた. 一方で,「実力がつかなかった」の割合は減少していることから, 教育内容そのものに不満があるわけではないものと考えられる.

また,「一方的な押しつけ授業だった」の割合が増加傾向を示しているが, これは受講生参加型のアクティブラーニング的な授業の増加とともに, 従来型の授業への不満が増加しているものと考えられる.

【標準履修モデル】

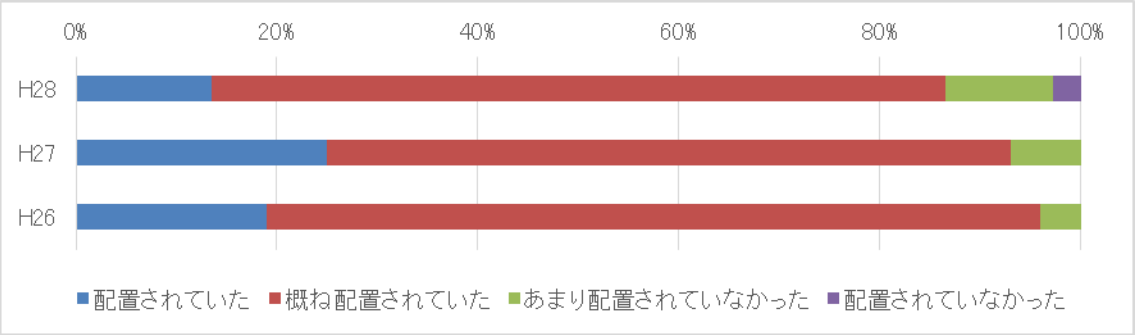
・基礎科目は, 授業内容や難易度において適切に配置されていましたか.



「配置されていた」19%,「概ね配置されていた」70%,「あまり配置されていなかった」17%,「配置されていなかった」3%であった.

過去のデータと比較し, 平成 28 年度は「あまり配置されていなかった」と「配置されていなかった」の割合が増加傾向にあるものの, 約 90%の学生が 「配置されていた」または「概ね配置されていた」を選択していることから, 問題はないものと思われる.

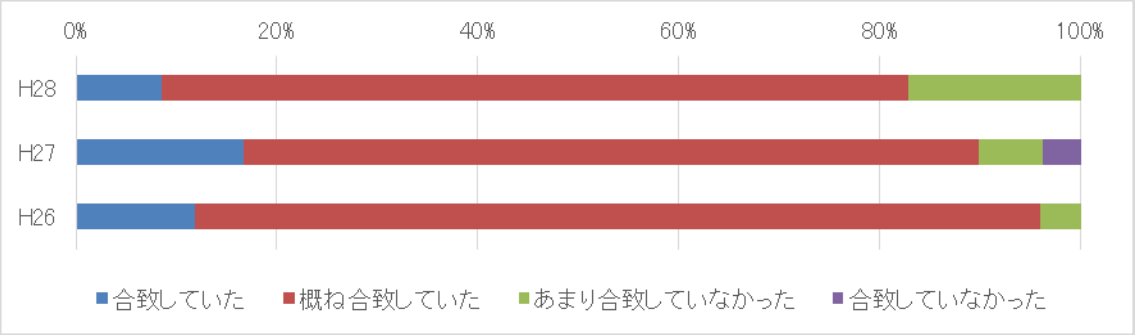
・専門科目は, 授業内容や難易度において適切に配置されていましたか.



「配置されていた」14%,「概ね配置されていた」73%,「あまり配置されていなかった」11%,「配置されていなかった」3%であった.

過去のデータと比較し, こちらも「あまり配置されていなかった」と「配置されていなかった」の割合が増加傾向にあるものの, 大きな問題はないものと思われる.

・教育目標は標準履修モデルと合致していたか

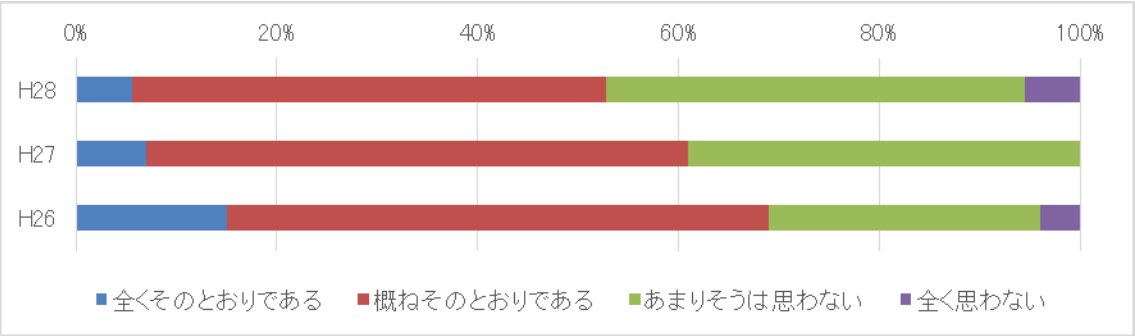


「合致していた」19%,「概ね合致していた」74%,「あまり合致していなかった」17%であった.

過去のデータと比較し, 平成 28 年度は「あまり合致していなかった」の割合が大幅に増加していたものの,「合致していた」と「概ね合致していた」を選択した学生が 80%以上に達していたことから大きな問題はないものと思われる.

【専門科目への要望】

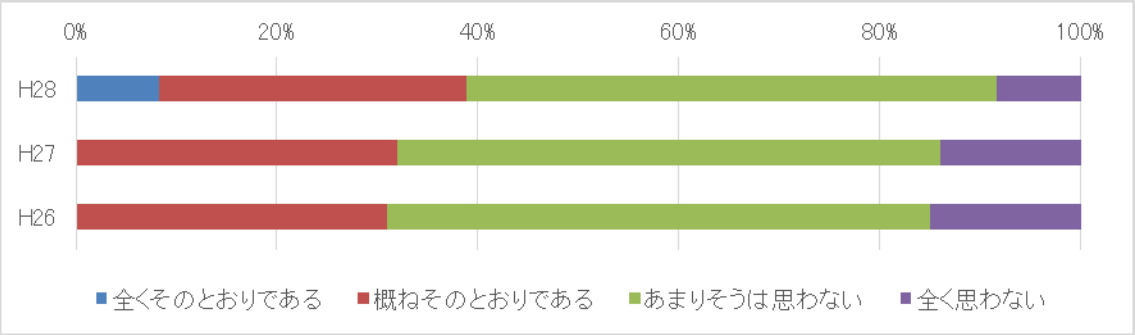
・「より高度な授業内容を実施して欲しい」という要望に対するあなたの意見.



「全くそのとおりである」6%,「概ねそのとおりである」47%,「あまりそうは思わない」42%,「全く思わない」6%であった.

過去のデータと比較し,「あまりそうは思わない」と「全く思わない」の割合に増加傾向が見られた. また, 平成 28 年度は, より高度な授業を望む学生の割合が約 50%と過去最低となっていた.

・「難しい授業が多すぎるので, もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対するあなたの意見

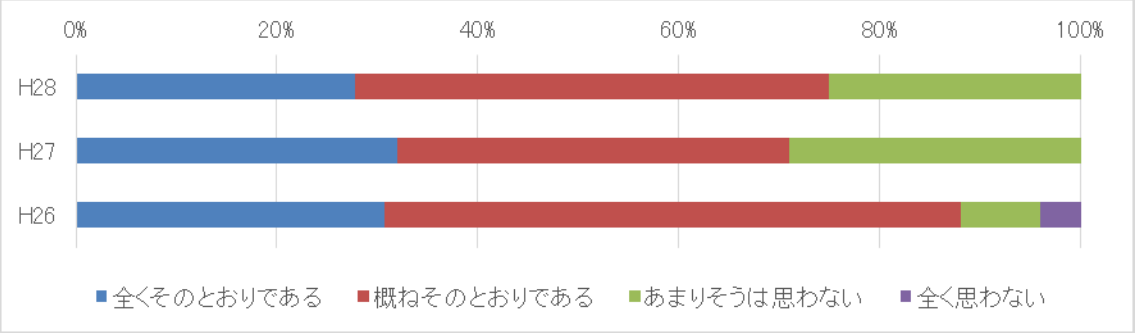


「全くそのとおりである」8%,「概ねそのとおりである」31%,「あまりそうは思わない」53%,「全く思わない」8%であった.

過去のデータと比較し, 平成 28 年度には, それまでまったく見られなかった「全くそのとおりである」の割合が 8%と増加していた. このため,「難しい授業が多すぎるので, もう少しレベルを下げて欲しい」という要望は 40%に迫る状況になっていた.

ここまでの結果から, 平成 28 年度は「より高度な授業内容を実施して欲しい」とする学生は減少し,「難しい授業が多すぎるので, もう少しレベルを下げてほしい」とする学生は増加していた. 近年, カリキュラムに大幅な変更は行われておらず, 担当教員の変更もないため, 平成 28 年度の結果を説明することは難しい. 学業成績などを加味した分析も必要であろう.

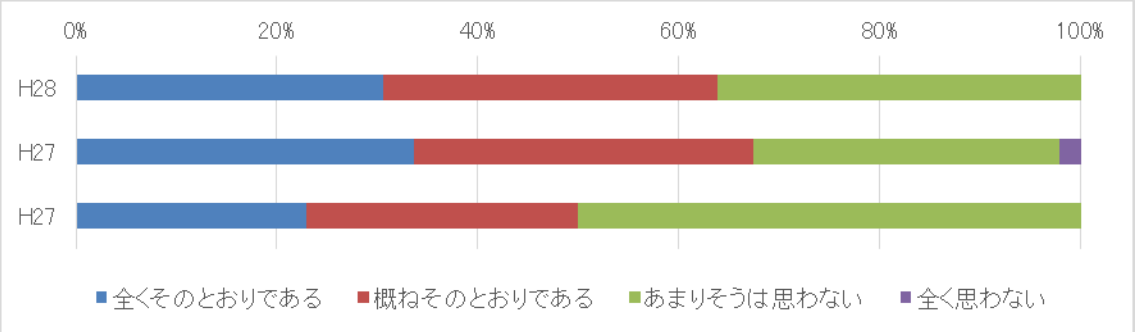
・「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見



「全くそのとおりである」28%,「概ねそのとおりである」47%,「あまりそうは思わない」25%であった.

増加を求める声は 75%と平成 27 年度より増加している. ただし, 特に野外実習の増加は, 定員や安全性の問題もあり, 現状では難しい.

・「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見

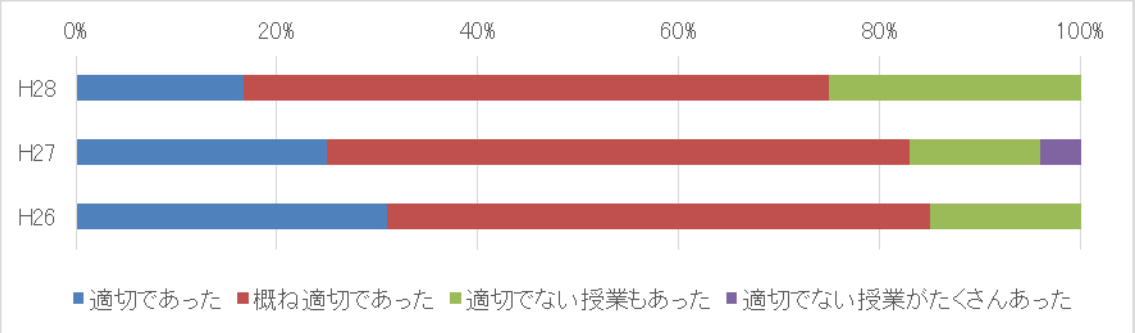


「全くそのとおりである」31%,「概ねそのとおりである」33%,「あまりそうは思わない」36%であった.

社会に出て役立つ授業を求める声は 64%で, 昨年からわずかに減少していた. 具体的な例では「社会のマナー」,「目上の人に対する接し方」,「一般常識」,「パソコンを使ったもの」など理学部教育よりもむしろ共通教育等に関係する内容が多い. 一方で「仕事にも応用できる技術」などは, 理学部が理工学部へ改組した事で, 今後はある程度組み込まれることになるだろう.

【成績評価】

・成績評価の方法は適切であったか



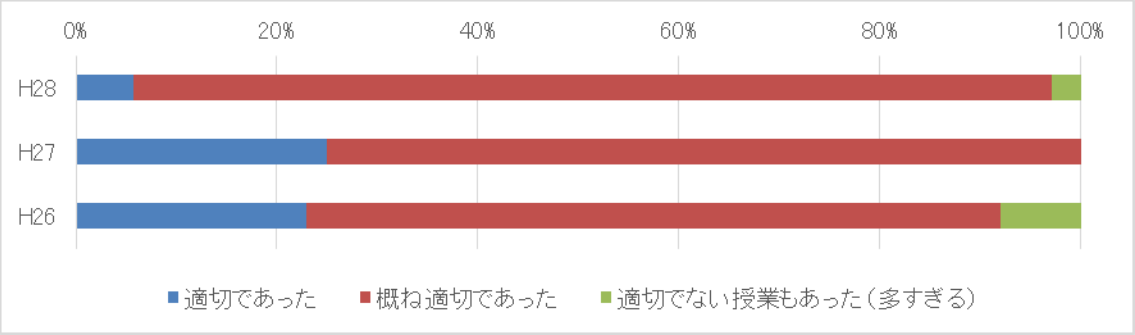
「適切であった」17%,「概ね適切であった」58%,「適切でない授業もあった」25%であった.

過去のデータと比較し, 平成 28 年度は「適切であった」の割合が減少傾向に,「適切でない授業もあった」の割合は増加傾向となっていた. 一方で, 平成 27 年度に少数ながら認められた「適切で

ない授業がたくさんあった」は，平成 28 年度では見られなくなっていた．

【授業改革】

・授業科目数と内容は適切か

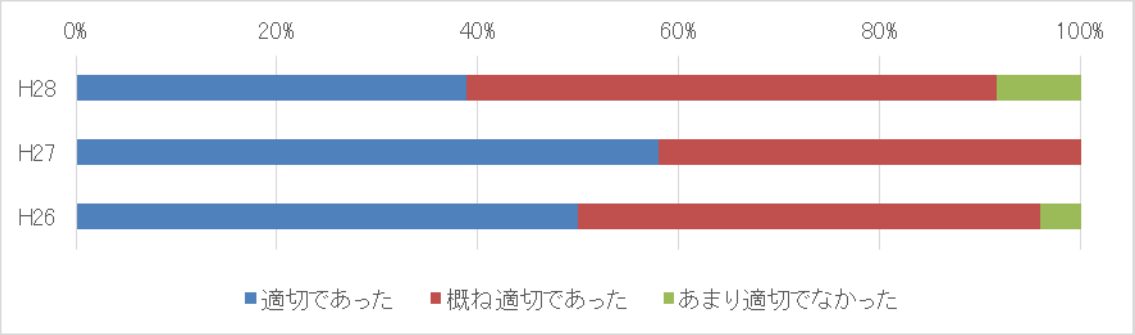


「適切であった」6%，「概ね適切であった」89%，「適切でない授業もあった（多すぎる）」3%であった．

過去のデータと比較すると，平成 28 年度は「適切であった」の割合が大幅に減少していたものの，「概ね適切であった」の割合は増加していた．このことから科目数も内容も現状は妥当であると思われる．

【アドバイザー教員制度】

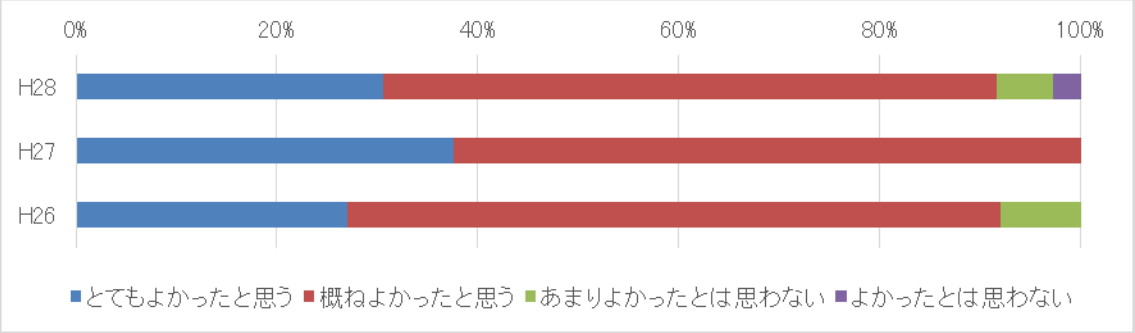
・アドバイザー教員の指導・支援は適切であったか



「適切であった」39%，「概ね適切であった」53%，「あまり適切でなかった」8%であった．

過去のデータと比較して，平成 28n 年度は「適切であった」の割合が減少しているものの，「概ね適切であった」は増加していることから，アドバイザー教員の指導・支援は有効に機能しているものと思われる．

【総合的に考えて高知大学で学んでよかったか】



「とてもよかったと思う」31%，「概ねよかったと思う」61%，「あまりよかったとは思わない」6%，「よかったとは思わない」3%であった．

平成28 年度は平成 26 年度のデータと類似した結果で，90%以上の学生がよかったと考えている．このことから，大きな問題はないものと考えられる．

【分析と今後の教育へのフィードバック】

平成 28 年度は，特に「受講科目の感想」が例年とは大きく異なっていた．中でも「満足できた授業数」が減少し，「満足できなかった授業数」が大幅に増加していた．また，満足できなかった理由として「不親切で分かり難い」と「教材に工夫が見られなかった」が大幅に増加していた．一方で「実力がつかなかった」は過去最低となり，「難しい授業が多すぎるので，もう少しレベルを下げてほしい」とする学生は増加していた．カリキュラムに大幅な変更は行われておらず，担当教員の変更もないため，今回のアンケートからだけではなぜこのような結果になったのか判断できない．

また，平成28年度は「研究室での卒論やゼミ」および「先生との出会い」の満足度がやや低下し，「授業」や「研究室での卒研やゼミ」への不満，研究施設（学習環境）への不満の割合が増加していた．近年，生物科学コースは学生数が多く，教員と密接に接する機会が相対的な低下，研究室の狭隘な状況にあることも原因であるものと思われる．現在の理工学部は，各学科に定員が設けられているため，これらの点は今後改善されるものと考えられる．

【地球科学コース】

平成28年度末は，卒業予定者10名から12件のアンケートが回収された．アンケート実施の過程で何らかの手違いや勘違いなどがあった可能性があるが現在となっては理由を確かめるすべはない．したがって，ここではいずれの回答も有効なものとしてあつかう．なお，回答数はそれでも少ないため，特筆される点などの簡単なコメントにとどめる．

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に関する回答（複数回答）は，「友人との出会い」が8名ともっとも高く，ついで「課外活動」が7名，「授業」と「研究室での卒研やゼミ」がそれぞれ5名でそれに続いている．一方「満足できなかったもの」としては「授業」，「研究室での卒研やゼミ」そして「先生との関係」をあげたものが2名ずつあった．また，個別回答として「金不足」というものがあったが，具体的に何を指しているのかは明らかでない．

【教育研究施設に関する感想】

教育研究施設（学習環境）に関しては，10名の学生が「満足できた」あるいは「ほぼ満足できた」と回答しており，大きな問題は無いものと考えられる．

【受講科目の感想】

「満足できた授業」の数に関する回答はいずれも幅が広く，理学部全体と比較して大きく変わった傾向は見られない．また，満足した理由に関しては8名の学生が「専門分野の実力がついた」と回答し，4名の学生が「教員の熱意が感じられた」と回答している．これに対して「満足できなかった授業」の数は，全ての回答が「10個以下」となり，理学部全体の傾向から見ても低い．以上を総合すると好ましい結果と言えよう．

【標準履修モデル】

基礎科目の配置に関しては11名の学生が，そして，専門科目に関しては10名の学生が，適切に「配置されていた」あるいは「おおむね配置されていた」と回答している．

【実験実習や野外調査について】

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対して9名の学生が「全くその通りである」あるいは「おおむねその通りである」と回答している．

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」との問いには，11件の回答が「適切であった」または「概ね適切であった」と回答しており，特に問題はない．

【授業改革】

「授業科目数と内容」に関しては11名が「適切である」または「概ね適切である」と回答しており，問題はないだろう．

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援」に関して12名の学生が「適切であった」あるいは「概ね適切であった」と答えている．

【高知大学での学び】

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」との問に，1名が「あまりよかったと思わない」と回答したものの，11名の学生が「とても良かったと思う」あるいは「おおむね良かったと思う」と回答している．少数の意見にも傾聴する必要はあろうが，おおむね良好な教育を実施してきたと言えよう．

【分析と今後の教育へのフィードバック】

以上の結果はほぼ例年同様であり，また，自由意見の中でも「4年生の1年間は特に充実した研究ができた。この研究テーマを与えて頂いた先生に感謝申し上げます。」との声も聞かれた．これらを総合すると，地球科学コースでは，学生数は少ないものの，比較的満足度の高い教育を実施してきたことがあらためて確認できた．ところで，学部改組のため，次年度からはこのコースは理工学部の地球環境防災学科や生物科学科と併存する形となる．これにともなって，履修科目の読み替えが生じるなど，その教育体制にも若干の変更が生じる．今後はこうした教育体制の変化を積極的に受け入れるとともに，担当教員間の連携を今以上に密にすることで，「地球科学コース」の教育が今以上に良いものとなるように留意していくことが重要であろう．

【情報科学コース】

平成 28 年度 17 名の卒業者数で回答は 15 名，回答率は 88%である。

【全般的な質問】

「勉学や生活で満足できたもの」は，回答の多い順に「友人との出会い」，「研究室での卒研やゼミ」，,「先生との出会い」，「授業」，「課外活動」，「親からの自立」である．この結果から，学生間の人間関係，研究室内における教員と学生との関係が大変良好である．

「勉学や生活で満足できなかったもの」は，回答の多い順に「課外活動」，「授業」であるが，課外活動については，具体的な問題が不明なため評価できないが，授業について満足できない点をアンケート等で探り，改善する必要がある．

「教育研究施設（学習環境）への満足」は，回答の多い順に「満足」，「ほぼ満足できた」が大半を占めており，「あまり満足できなかった」「満足できなかった」はわずか（2 人）であることから，情報科学コースにおいて，学習環境で満足できる教育施設拡充できていることがわかる．

「就職支援活動は満足か」は，半数以上が「満足」「ほぼ満足」であり，「あまり満足できなかった」は約 5 分の 1 である．今後さらなる学生への就職支援情報の周知を努力していく必要がある．

「公認・非公認のボランティア活動への参加」は，3 名が「ある」と回答しており，それら参加した学生の満足度も高い．一方，ほとんどが「ない」を回答していることから，ボランティア活動への参加意識は低いことが分かる．

【受講科目の感想】

「受講科目で満足した科目数」は，回答の多い順に「20-29科目」，「40科目以上」であり，多くの科目で満足を得ている．

「満足できた理由」は，回答の多い順に「専門分野の実力がついた」，「親切で丁寧」，「親切で丁寧な授業であった」「教員の熱意が感じられた」などが特に多く，多くの科目において教育が適切に行われている．

「受講科目で満足できなかった科目数」は，ほとんどの回答が「9科目以下」である．

「満足できなかった理由」は，回答の多い順に「不親切で分かり難い」，「専門分野の実力つかなかった」，「一方的押し付け」である．

「全般的な質問」でも言及したが，授業についての不満点をアンケート等で探り，改善する必要があるだろう．

【標準履修モデル】

「基礎科目は，内容・難易度で適切に配置しているか」では，回答の多い順に「配置されていた」「概ね配置されていた」のみであり，基礎科目が適正に配置されていることが分かる．

「専門科目は，内容・難易度で適切に配置しているか」でも同様に，回答の多い順に「配置されていた」「概ね配置されていた」のみであり，専門科目が適正に配置されているこ

とが分かる.
「コース独自の教育目標と標準履修モデルとの合致」は，回答の多い順に「合致していた」「概ね合致していた」のみであり，コース独自の教育目標と標準履修モデルが合致していることが分かる.

【専門科目への要望】
「より高度な授業内容の実施してほしい」では，回答の多い順に「概ねそのとおり」，「あまりそう思わない」が大半を占めていることから，現状のレベルからの急激な高度化は望まれていないことがわかる.
「難しすぎる授業のレベルを少し下げてほしい」においても，回答の多い順に「概ねそのとおり」，「あまりそう思わない」が大半を占めていることから，現状のレベルがほぼ適切であることが分かる.
「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」では，回答の多い順に「概ねそのとおり」「あまりそう思わない」が大半を占めていることから，現状でほぼ適切であることが分かる.
「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」では，回答の多い順に「全くそのとおり」，「あまりそう思わない」であるが，情報科学コースの科目の多くが社会で役立つ内容を含んでいることから，今後も社会で役立つ内容を盛り込んだ適切な授業が望まれていることが分かる.

【成績評価】
「成績評価の方法は適切か」では，回答の多い順に「概ね適切」，「適切」が多数であり適切であることがわかる.

【授業改革】
「各学科開設の授業科目数・内容は適切か」では，回答の多い順に「概ね適切」「適切」がほとんどであり，科目数が適切である.

【アドバイザー教員制度】
「アドバイザー教員の指導･支援は適切か」では，回答の多い順には，「適切」，「概ね適切」がほとんどであり，アドバイザー教員制度が機能していることがわかる.
「総合的に考えて高知大学理学部で学んでよかったか」では，回答の多い順には，「とてもよかった」，「概ねよかった」であり，情報科学コースにおいて，多くの学生が満足していることがわかる.

【分析と今後の教育へフィードバック】
アンケート結果の分析から，次のことがわかった.
1)情報科学コースの教員と学生との人間関係が良好であり，教育研究施設（学習環境）も満足している．この維持に努める必要がある.
2)情報科学コースの公認･非公認のボランティア活動へは学生のほとんどが参加していない.
3)情報科学コースの就職支援活動は，ほぼ満足しているがさらなる就職支援活動についての

周知努力が必要である．
4)情報科学コースの多くの基礎教育，専門教育でていねいで分かりやすく，熱意を持った授業が行われているが一部で不満が見られる．アンケート等を利用して，その原因や問題点の改善が必要である．
5)情報科学コースの基礎科目の内容・難易度と配置は適切である．
6)情報科学コースの専門科目の内容・難易度と配置は適切である．
7)情報科学コースの成績評価は適切である．
8)情報科学コースの学科開設科目数，履修モデルの内容，レベル等は適切である．
9)情報科学コースのアドバイザー制度が機能しており，高知大学理学部で学んでよかったと思う学生がほとんどである．

以上のアンケート結果および分析結果から，現状の教員と学生との人間関係，教育施設の拡充，就職支援体制を保ちつつ，また，ていねいに熱意を持った専門教育をさらに充実させるため授業への要望を満たす講義別アンケート等を工夫し，さらなる学習意欲を高める教育提供を目指していきたい。

【応用化学コース】
平成23-27年度の5年間のアンケート結果を比較・検討した．各年度の回答率は， H24：74％(20/27)，H25：25/30(83％)，H26：18/26(69％)，H27：24/30(80％)，H28:22/27(82%)であった．
以下で各年度のパーセントを（24年度，25年度，26年度，27年度，28年度）で表すことにする．
【全般的な質問】
“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は，5年間を通じて「友人との出会い」（85％，80％，72％，75％，86%），「研究室での卒研やゼミ」（90％，56％，50％，42％，55%）であり，研究室での研究活動の評価が50%強となっている．また，「授業」は，35％，20％，17％，17％，27％で減少傾向がH28年度は27%増加したが高くはない． “高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち，「授業」は25%，40％，44％，38％，35%であった．H25年度に急増し約40％で継続している．また，例年「課外活動」（30％，35％，16％，16％，13％，4%）についてもH25年度に急減し，大学生活全体に期待したような充実感を得ていない学生がいるようである．H28年度の特徴として，「親からの自立」が理学部全体の19%の36%と約倍高い．
“教育研究施設（学習環境）”についての満足度は，満足とほぼ満足を合わせると95%，88%，83%，79%，77%で減少気味であるが，学習環境は十分に整っていると考えられる．
“高知大学の就職支援活動”については，「満足できた」と「満足できなかった」の回答は，70％/20％，68％/20％，78％/23％，58％/17％，18%/14%となっており，「満足できた」という回答が極端に減少しているが，「ほぼ満足できた」を加えると半数である．“ボランティア活動への参加”について，「ある」（20%，

24%，28%，29%，18%）は，数値的にはそれほど高いとは言えない．応用化学コースの場合，特に4年生では卒業研究などに費やされる時間が多く，ボランティア活動に時間を割く余裕がないにもかかわらず参加者がいる．なお，ボランティア活動への参加者は全員その活動にほぼ満足している．

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(15%，4%，0%，13%，14%)，30-40(25%，28%，22%，21%，32%)，20-30(5%，44%，33%，25%，23%)，10－20（50%，20%，28%，29%，14%），10以下（5%，4%，17%，13%，18%）となっている．年度によってばらつきがあるが，全般的に年度を経るごとに満足できた授業の数がわずかながら減少傾向からH28年度は増加となった．“満足した理由”については，「専門分野の実力がついた」（80%，60%，56%，42%,28%），「親切で丁寧な授業であった」（50%，52%，39%，46%，31%），「教員の熱意が感じられた」（35%，32%，28%，38%，22%）となっており，いずれの理由も減少し実力が伸びていない．満足できた授業とは異なる結果となっている．“満足できなかった授業”の数は，40以上(0%，0%，0%，8%，9%)，30-40(20%，0%，11%，21%,14%)，20-30(0%，12%，28%，29%，14%)，10-20(15%，28%，28%，21%，23%)，10以下(65%，60%，33%，17%，41%)となっている．“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」（60%，36%，61%，46%，33%），「一方的な押し付け授業だった」（45%，16%，28%，33%，21%），「実力がつかなかった」（0%，20%，16%，25%，12%）などとなっており，授業は改善されつつあると受け止まられているとともに実力がついたと感じている．“満足できた授業”と“満足できなかった授業”とで異なる傾向から学生の二極化が示唆される．

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について，肯定的な回答が，80%，84%，90%，96%，86%と毎年高い．“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても，肯定的な回答(95%，96%，83%，92%，86%)が得られている．

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して，より高度な授業を積極的に望む回答をした人は25%，28%，6%，17%，5%であった．肯定的な回答(概ねそのとおりである)が64%である．また“難しい授業が多すぎるので，もう少しレベルを下げてほしい”という要望に対して，否定的な人は95%，76%，78%，62%，59%であり，全体的に現状の授業レベルを望む人が多いようである．“実験実習の時間を増やしてほしい”や“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望に対して，それぞれ希望する人は85%，56%，66%，66%，50%や40%，44%，44%，54%，50%であり，コミュニケーションやプレゼン能力の向上，ビジネスマナーなど具体的な要望に関する記述が数件あった．

【成績評価】
“成績評価”については，肯定的な回答が95%，96%，72%，71%，59%となっており，減少傾向で理学部全体の80%より低く，“適切でない授業もあった”も36%と比較的高い．

【授業改革】
“授業科目数と内容の適切さ”については，肯定的な回答(85%，96%，86%，87%，78%)が高く維持されているが減少傾向である．授業改革に関する具体的な記載はなかった．
【アドバイザー教員制度】
“アドバイザー教員制度”については，肯定的な回答が92%，100%，88%，94%，92%、95%であり，多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである．
【自由意見】
理学部の教育や高知大学理学部全般について，SciFinderの利用と核磁気共鳴装置(NMR)の充実の要望があった。
【分析と今後の教育へのフィードバック】
この数年来，教育熱心な若い先生方を迎え入れ，老朽化した学生実験室の改修工事が進むなど，教育環境の改善がなされており，一定の効果が得られているように思われるが，特に授業のレベルや進め方について，「親切で丁寧な授業であった」，「専門分野の実力がついた」，「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が本年度 30%程度と評価が低く，研究室での卒論やゼミに対する満足度が理学部の平均的な数値である点と異なる．また，授業について「不親切でわかり難い授業」，「一方的な押し付け授業だった」，「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在しており，学力の二極化が進んでいるとともに学生の勉学意欲が落ちている学生が増えてきているように思われる．そのため特に成績不振学生については早期に発見し，学習習慣をしっかりと身に付けさせる早期ケアの必要性が増している．また大学での人間関係に悩む学生が増えており，大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生を発見し，救済する支援システムの構築がなおいっそう望まれる．一方，現状の授業レベルを維持しながら，高度な知識と応用力を獲得できる授業を展開し，意識の高い学生の要望にこたえる工夫も必要である．

【海洋生命・分子工学コース】
[28 年度の数字に続いて27 年度の数字を括弧内に示した]
卒業予定者36（33）名のうち32（35）名から回答を得た。回答率は89（106）%である。回答率は昨年より低下したものの，理学部平均の82.5%は依然上回っており，上出来と考える。そもそも昨年度の106%という数字が異常なのであり，毎年100%以上の回答率が得られるようでは，データ自体の信用度に疑問が生じる。
【全般的な質問】
大学で満足したこととしては，「友人との出会い」が 61%（86%）でトップであった。昨年度より数値は低下しているが，人付き合いが希薄になってきている世相を反映してい

るのかもしれない。次点は「課外活動」であり59％（29%）と昨年度比で倍増している。卒業研究に対する興味が薄れてきている可能性があり，改組に伴い（学長主導で）卒論を必修化したのは愚策だったかもしれない。昨年度次点であった「先生との出会い」は31％（49%）と低下しているが，コースの一教員としては，まぁ，これでも健闘している方だと考える。個別回答としては「滅茶苦茶本が読めた（原文ママ）」とあるが，「本を読めた」が正しいのではないかと思う。本当にたくさんの本を読んだのかどうか，心配である。

一方，満足できなかったこととしては「授業」が31％（23%）でトップであった。が，どの授業がどのように満足できないかの指摘が無いため，対応は不可能である。教育研究施設（学習環境）については「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で72%（83%）と，昨年比で多少減少したものの，高い数字となった。高知大学の設備の充実が，学生たちに支持されている結果である。就職支援に関して「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で75%（50%）となっており，「あまり満足できなかった」と「満足できなかった」の合計25％を大きく上回った。が，特に目新しい事はやっていないので，単に求人率などの就職状況が好転しただけではないかと考える。

【理学部に関する質問】

満足できた授業の数に関して，27 年度は「10〜19」が 23%,「20〜29」が 31%であったのに対して，28 年度は「10〜19」が 34%,「20〜29」が 22%となった。一見，満足度が低下したようにも見えるが，「30〜39」も25％あり，授業の質そのものが低下している訳ではなさそうである。ピークが2つあるということは，出来の良い学生と出来の悪い学生の差が開いて来ている事を示していると考える。

満足した理由については「専門分野の実力がついた」が 72%（37%）と昨年度比で倍増しているが，学生の実力から推察するに，勘違いしているとしか思えない。昨年度上位を占めた「親切で丁寧」（54%），「教員の熱意」（40%）は共に43％であり，妥当な数値と考える。満足できなかった授業の数については,「9以下」が 44%（46%）で最も多く，次いで「10〜19」が31％（23%）となっている。満足できなかった理由については「不親切でわかりにくい」が40％を占めている。個別回答としては「興味がもてなかった」，「記憶があまりない」とあった。前者に関しては，理学という学問自体，万人が興味を示すような類の物でないので致し方無い。後者に関しては，コメントは不要であろう。

【標準履修モデル】

基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が 91%（94%）を占め，肯定的な回答結果であった。専門科目についても「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が91％（91%）であり，同様な傾向の回答であった。また，コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには，88％（100%）が「合致していた」「概ね合致していた」と回答しており，十分な結果である。「より高度な授業をしてほしい」という要望に対する意見としては,「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が 50%（51%）である反面，「あまりそう思わない」と「全く思わない」も47％ある。両者の妥協点として，現状維持で良いと考えられる。「難しい授業が多すぎるので，もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対

しても「あまりそう思わない」が63%と過半数を占めており，現状維持を支持している。「実験実習の時間を増やしてほしい」という要望に対する意見としては,「全くそのとおり」あるいは「概ねそのとおり」と答えた学生は50%（74%）と減っている。「社会で役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対する意見としては，「あまりそう思わない」が56%で過半数を占めた。理学部という学部の性質に関しては，理化しが進んでいると考える。

【成績評価・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については，「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は84%（80%）であり，昨年とほぼ同率の高い数値であった。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては,「適切である」「概ね適切である」と答えた学生は88%（80%）であり，これも高い数値であった。個別回答としては「専門的な授業を増やしてほしい」とあったが，教員数が増えていない以上，無理を言われても困る。アドバイザー教員の指導・支援については「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は97%（86%）と高い値であり，この制度が十分に機能している結果と考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

友人や課外活動が，大学で満足したこととしてのアンケートで上位を占めた。学問は二の次なのかもしれない。理学部に関する事項では，授業の満足度は良好であるが，満足しなかった授業や理由も分かるよう，アンケート内容の変更も検討すべきではなかろうか。標準履修モデルは，基礎科目，専門科目ともに肯定的である。アドバイザー制度は順調に機能している様子であり，この制度の継続が望まれる。意見として「NMRを直して下さい」とある。分析者（湯浅）は分野外なので良くは分からないが，残念ながら現在の理学部には，最早その経済力は無いのかもしれない。

II. 集計結果

【所属】

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。

A. 数学コース　B. 物理科学コース

C. 化学コース　D. 生物科学コース　E. 地球科学コース

F. 情報科学コース　G. 応用化学コース

H. 海洋生命・分子工学コース

I. 災害科学コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業者数	57	22	17	58	10	17	27	36	13	257
回収件数	47	18	18	37	12	15	22	32	11	212
回収率(%)	82.5	81.8	105.9	63.8	120	88.2	81.5	88.9	84.6	82.5

【全般的な質問】

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。(複数回答可)

A. 授業　B. 研究室での卒研やゼミ　C. 先生との出会い

D. 友人との出会い　E. 課外活動　F. 親からの自立

G. その他（　　）

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	16	21	16	37	21	11	0	0
物理科学コース	4	10	9	12	6	5	2	0
化学コース	3	9	6	15	6	2	0	0
生物科学コース	10	16	8	29	15	11	0	0
地球科学コース	5	5	4	8	7	3	0	0
情報科学コース	6	11	10	12	3	2	0	0
応用化学コース	6	12	11	19	9	7	0	0
海洋生命・分子工学コース	10	14	10	22	19	7	1	0
災害科学コース	5	5	5	9	7	3	1	0
合計	65	103	79	163	93	51	4	0
合計(%)	30.7	48.6	37.3	76.9	43.9	24.1	1.9	0.0

○物理科学コース

・就職

・図書館がしっかりしている。

○海洋生命・分子工学コース

・滅茶苦茶本が読めた。

○災害科学コース

・趣味を中心に生活に対する価値観が変わったこと。

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

A. 授業　B. 研究室での卒研やゼミ　C. 先生との関係

D. 友人との関係　E. 課外活動　F. 親からの自立

G. その他（　　）

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	12	2	3	3	16	9	0	10
物理科学コース	7	4	1	1	3	2	1	6
化学コース	10	1	2	1	3	1	1	2
生物科学コース	14	7	5	3	10	5	4	1

地球科学コース	2	2	2	0	0	3	1	3
情報科学コース	5	0	0	1	6	4	1	3
応用化学コース	8	2	1	2	1	8	1	4
海洋生命･分子工学コース	10	7	2	2	4	6	0	7
災害科学コース	1	1	0	2	0	2	0	5
合計	69	26	16	15	43	40	9	41
合計(%)	32.5	12.3	7.5	7.1	20.3	18.9	4.2	19.3

〇物理科学コース

・学務課などの人の対応。

〇化学コース

・NMR

〇地球科学コース

・金不足

〇応用化学コース

・体調管理、節約

4. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

A. 満足できた　　B. ほぼ満足できた

C. あまり満足できなかった　D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	15	28	4	0	0
物理科学コース	4	12	2	0	0
化学コース	3	5	7	3	0
生物科学コース	4	26	6	1	0
地球科学コース	4	6	1	1	0
情報科学コース	1	11	2	1	0
応用化学コース	4	13	3	2	0
海洋生命･分子工学コース	8	15	7	2	0
災害科学コース	1	8	2	0	0
合計	44	124	34	10	0
合計(%)	20.8	58.5	16.0	4.7	0.0

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

A. 満足できた　　B. ほぼ満足できた

C. あまり満足できなかった　D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	12	21	11	3	0
物理科学コース	5	6	6	0	1
化学コース	4	5	6	3	0
生物科学コース	2	18	12	2	3
地球科学コース	3	6	3	0	0
情報科学コース	2	10	2	1	0
応用化学コース	4	7	7	3	1
海洋生命・分子工学コース	6	18	6	2	0
災害科学コース	0	7	4	0	0
合計	38	98	57	14	5
合計(%)	17.9	46.2	26.9	6.6	2.4

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある　　B. ない

	A	B	無回答
数学コース	14	33	0
物理科学コース	4	14	0
化学コース	4	14	0
生物科学コース	13	24	0
地球科学コース	5	7	0
情報科学コース	3	12	0
応用化学コース	4	18	0
海洋生命・分子工学コース	9	23	0
災害科学コース	4	7	0
合計	60	152	0
合計(%)	28.3	71.7	0.0

7. 6 で「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた　　B. ほぼ満足できた

C. あまり満足できなかった　D. 満足できなかった

続いて理学部に関する質問です。

	A	B	C	D	無回答

数学コース	9	5	0	0	0
物理科学コース	2	2	0	0	0
化学コース	3	1	0	0	0
生物科学コース	8	5	0	0	0
地球科学コース	1	4	0	0	0
情報科学コース	2	1	0	0	0
応用化学コース	2	2	0	0	0
海洋生命・分子工学コース	6	2	0	0	1
災害科学コース	1	1	2	0	0
合計	34	23	2	0	1
合計(%)	56.7	38.3	3.3	0.0	1.7

【受講科目の感想】

8. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）の印象をお聞きします。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上　B. 30～39　C. 20～29　D. 10～19　E. 9 以下

	A	B	C	D	E	無回答
数学コース	9	5	18	12	3	0
物理科学コース	2	1	7	6	2	0
化学コース	3	3	6	4	2	0
生物科学コース	4	3	14	10	4	2
地球科学コース	2	2	3	4	1	0
情報科学コース	3	2	6	2	2	0
応用化学コース	3	7	5	3	4	0
海洋生命・分子工学コース	3	8	7	11	3	0
災害科学コース	3	2	3	1	2	0
合計	32	33	69	53	23	2
合計(%)	15.1	15.6	32.5	25.0	10.8	0.9

9. 満足した理由を下記より選んでください。（複数回答可）

A. 専門分野の実力がついた　B. 親切で丁寧な授業であった　C. 教材を工夫していた
D. 教員の熱意が感じられた　E. 授業が一方的でなかった　F. 授業内容が斬新だった
G. その他（　　）

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	25	35	4	11	8	4	0	0
物理科学コース	9	7	3	4	4	3	0	0
化学コース	12	7	3	3	0	3	0	0

生物科学コース	20	12	3	12	5	6	0	1
地球科学コース	8	2	1	4	0	2	0	0
情報科学コース	13	8	4	5	3	3	0	0
応用化学コース	10	11	3	8	1	2	1	1
海洋生命・分子工学コース	23	14	1	14	3	3	0	0
災害科学コース	7	6	1	3	1	0	0	1
合計	127	102	23	64	25	26	1	3
合計(%)	59.9	48.1	10.8	30.2	11.8	12.3	0.5	1.4

○応用化学コース

・勉学の難しさを痛感できた。

10. 理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち，満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上　B. 30～39　C. 20～29　D. 10～19　E. 9 以下

	A	B	C	D	E	無回答
数学コース	0	3	6	15	23	0
物理科学コース	1	2	3	4	8	0
化学コース	3	2	4	2	7	0
生物科学コース	6	10	9	10	2	0
地球科学コース	0	0	0	9	3	0
情報科学コース	1	0	3	1	10	0
応用化学コース	2	3	3	5	9	0
海洋生命・分子工学コース	1	2	5	10	14	0
災害科学コース	0	0	3	1	7	0
合計	14	22	36	57	83	0
合計(%)	6.6	10.4	17.0	26.9	39.2	0.0

11. 満足しなかった理由を下記より選んでください。（複数回答可）

A. 実力がつかなかった　B. 不親切でわかり難い授業だった

C. 教材の工夫が見られなかった　D. 教員の熱意が感じられなかった

E. 一方的な押し付け授業だった　F. 内容が古すぎた

G. 内容が体系的でなく断片的だった

H. その他（　　）

	A	B	C	D	E	F	G	H	無回答
数学コース	20	25	2	4	20	0	3	1	1
物理科学コース	11	6	2	1	4	0	1	4	0

化学コース	8	12	3	5	5	1	2	0	0
生物科学コース	6	18	11	6	13	2	4	1	3
地球科学コース	6	5	1	0	2	0	0	0	2
情報科学コース	7	8	2	2	6	2	1	0	0
応用化学コース	4	11	2	5	7	1	1	2	0
海洋生命･分子工学コース	6	13	7	5	6	0	4	2	2
災害科学コース	3	4	1	0	2	0	0	1	2
合計	71	102	31	28	65	6	16	11	10
合計(%)	33.5	48.1	14.6	13.2	30.7	2.8	7.5	5.2	4.7

○数学コース

・自分自身の勉強不足。

○物理科学コース

・自分自身が勉強不足だった。

・単純に難しすぎた。

・理解できなかった。

・3、4 年生の授業は問題が実際にどのように活かされているか分かったが、1、2 年生の授業はそれが社会にどのような意味をもっているか意識しづらかった。

○応用化学コース

・自分のやる気の無さ。

・授業がおもしろくなかった。

○海洋生命・分子工学コース

・興味がもてなかった。

・記憶があまりない。

【標準履修モデル】

12. 基礎科目は，授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

A. 配置されていた　　B. 概ね配置されていた

C. あまり配置されていなかった　D. 配置されていなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	18	27	2	0	0
物理科学コース	6	9	2	0	1
化学コース	5	12	1	0	0
生物科学コース	7	26	3	1	0

地球科学コース	5	6	1	0	0
情報科学コース	6	9	0	0	0
応用化学コース	4	15	2	1	0
海洋生命・分子工学コース	10	19	2	1	0
災害科学コース	0	7	4	0	0
合計	61	130	17	3	1
合計(%)	28.8	61.3	8.0	1.4	0.5

13. 専門科目は，授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

A. 配置されていた　　B. 概ね配置されていた

C. あまり配置されていなかった　D. 配置されていなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	17	25	3	0	2
物理科学コース	5	11	2	0	0
化学コース	3	12	3	0	0
生物科学コース	5	27	4	1	0
地球科学コース	5	5	2	0	0
情報科学コース	7	8	0	0	0
応用化学コース	3	16	3	0	0
海洋生命・分子工学コース	10	19	2	0	1
災害科学コース	2	5	4	0	0
合計	57	128	23	1	3
合計(%)	26.9	60.4	10.8	0.5	1.4

14. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください)。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

A. 合致していた　　B. 概ね合致していた

C. あまり合致していなかった　D. 合致していなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	11	33	1	0	2
物理科学コース	4	12	2	0	0
化学コース	3	12	3	0	0
生物科学コース	3	26	6	0	2
地球科学コース	6	3	3	0	0
情報科学コース	4	11	0	0	0
応用化学コース	2	17	3	0	0

海洋生命･分子工学コース	6	22	3	0	1
災害科学コース	1	8	2	0	0
合計	40	144	23	0	5
合計(%)	18.9	67.9	10.8	0.0	2.4

【専門科目への要望】

15. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

A. 全くそのとおりである　　B. 概ねそのとおりである

C. あまりそう思わない　　D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	3	17	24	1	2
物理科学コース	1	5	12	0	0
化学コース	4	9	4	1	0
生物科学コース	2	17	15	2	1
地球科学コース	4	2	6	0	0
情報科学コース	0	9	6	0	0
応用化学コース	1	14	7	0	0
海洋生命･分子工学コース	3	13	13	2	1
災害科学コース	0	7	4	0	0
合計	18	93	91	6	4
合計(%)	8.5	43.9	42.9	2.8	1.9

16. 「難しい授業が多すぎるので，もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

A. 全くそのとおりである　　B. 概ねそのとおりである

C. あまりそう思わない　　D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	1	13	24	7	2
物理科学コース	2	7	7	2	0
化学コース	0	10	5	3	0
生物科学コース	3	11	19	3	1
地球科学コース	1	3	7	1	0
情報科学コース	0	8	6	1	0
応用化学コース	1	8	11	2	0
海洋生命･分子工学コース	2	4	20	5	1
災害科学コース	1	3	5	2	0

合計	11	67	104	26	4
合計(%)	5.2	31.6	49.1	12.3	1.9

17. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

A. 全くそのとおりである　　B. 概ねそのとおりである

C. あまりそう思わない　　D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	3	5	22	15	2
物理科学コース	4	6	6	2	0
化学コース	6	7	5	0	0
生物科学コース	10	17	9	0	1
地球科学コース	4	5	3	0	0
情報科学コース	2	6	6	1	0
応用化学コース	3	8	5	6	0
海洋生命・分子工学コース	8	8	12	3	1
災害科学コース	3	3	3	2	0
合計	43	65	71	29	4
合計(%)	20.3	30.7	33.5	13.7	1.9

18. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

A. 全くそのとおりである　　B. 概ねそのとおりである

C. あまりそう思わない　　D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	6	11	20	8	2
物理科学コース	3	5	8	2	0
化学コース	3	3	10	2	0
生物科学コース	11	12	13	0	1
地球科学コース	1	7	3	1	0
情報科学コース	9	2	4	0	0
応用化学コース	4	7	9	2	0
海洋生命・分子工学コース	3	8	18	2	1
災害科学コース	4	2	5	0	0
合計	44	57	90	17	4
合計(%)	20.8	26.9	42.5	8.0	1.9

19. 18 で A あるいは B を選択した人にお聞きします。社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

〇数学コース

・社会人としてのマナー。
・議論やプレゼンテーション能力。
・他人と専門科目に関して話をすること。
・様々な計算方法。
・Word や Excel を使いこなせる。
・地域との関わり。
・コミュニケーション能力。
・情報処理能力。
・中、高の教育現場で使える専門内容。
・将来の仕事にとってプラスになるようなステータスの身につく授業。
・理学部の科目を学ぶにあたり身につく能力、またその力が社会的にどのように有用であるか。
・論理的な文の構成方法。
・専門分野が直接何に役立つか。
・社会人経験者からの経験談。

〇物理科学コース

・社会人としての常識や、課外活動の中で社会に出たときに役立つ活動の勉強。
・語学の内容を強化し、継続的にやって欲しい。
・ビジネスマナー、業界研究授業、副業、資産運用。
・理学部で言えば、研究職等で活かせるような実験の内容を取り入れて、基礎的な部分を経験できるものがあればいいと感じる。

〇化学コース

・工学的なものづくりの授業。
・専門的な資格の習得。
・教員と学生の関係が社会でいう先輩と後輩になるのか、上司と部下になるのかが曖昧なので線引きをしっかりしてほしい。
・就職した時に役立つ授業（マナーなど)。
・授業内。

〇生物科学コース

・パソコンを使ったもの。
・大学の外で学ぶ授業を増やし、人との関わり合いを増やす。
・現在行われている事業の技術など。

・社会のマナー、資格。
・基礎からプレゼンテーション能力を鍛えてくれるような授業。
・幅広い知見、一般常識。
・目上の人に対する接し方（言葉遣い、振る舞い)。
・仕事（実習など）で役立った知識。
・仕事にも応用できる技術。
・コミュニケーション能力、問題解決能力、思考力、行動力。
・グループワーク、資料整理など。
・現在の研究の進捗状況、今何がわかっていて何がわかっていないのか（研究職を目指す時に、何に焦点を当てればよいかがわかりにくい)。
・インターンの機会をもっと増やす。

〇地球科学コース
・社会人としてのマナー全般。
・目標の設定方法。
・協調性、リーダーシップ力、経済力。
・コミュニケーション能力。

〇情報科学コース
・レポートの掲載、グラフの知識。
・C 言語ばかりではなく、もっと他の言語を扱っている会社は多いので他の言語についての授業をもっと受けたかった。色々なプログラミング言語でプログラミングができる力をつけたかった。
・まず英語力をアップさせ、社会に出て問題があっても人に頼らず google で検索できるので、自立かつ能力のある人材になると思います。
・コミュニケーション能力の上昇、プレゼン能力の上昇、マナー。
・就職で必要なマナーや技術など。特に、マナーは教えてほしい。
・会話などで使用するプログラミング言語など。
・社会に出てからも活かせる力を身につけたい。
・会社で即使えるような能力。
・実際に社会で使用する知識。
・色々な事の基礎も大事だけど、実際に使う時はその応用になるから、もう少し応用的なことを取り入れてほしい。
・しくみ。

〇応用化学コース
・社会に出てからの応用力。
・生きていくために大切なこと、世渡りの術など。

・長いものに巻かれること。
・修科学、論理術。
・専門知識。
・ビジネスマナーや社会常識等を雑談的にでも話してくれる先生がいると楽しいかなと思う。
・パワーポイントを用いた発表。
・必ずしもそのままのものが役に立つことはまず無いと思っているので、その体験をする時に自分がしたことが役立つと思っている。(経験が役立つみたいな意味)
例えば、実験：考察、資料：探し方、人とのディスカッション、プレゼン発表など。

○海洋生命・分子工学コース
・すぐに仕事に使えるようなスキル。
・情報系。
・インターンシップ。
・常識、マナーを大切にする。
・プレゼン。

○災害科学コース
・自分を知る。
・様々な職種において共通する一般スキルなど。
・コミュニケーション能力。
・経営論など。

【成績評価】
20. これまで受講した授業について，成績評価の方法は適切であったと思いますか。
A. 適切であった　B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった　D. 適切でない授業がたくさんあった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	17	24	5	1	0
物理科学コース	8	7	3	0	0
化学コース	3	12	1	0	2
生物科学コース	6	21	9	0	1
地球科学コース	2	9	1	0	0
情報科学コース	6	8	1	0	0
応用化学コース	5	8	8	0	1
海洋生命・分子工学コース	8	19	4	0	1
災害科学コース	1	8	2	0	0

合計	56	116	34	1	5
合計(%)	26.4	54.7	16.0	0.5	2.4

【授業改革】

21. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思われますか。

A. 適切である　　B. 概ね適切である

C. 足りない　　D. 多すぎる

	A	B	C	D	無回答
数学コース	13	33	1	0	0
物理科学コース	7	10	1	0	0
化学コース	2	13	1	0	2
生物科学コース	2	32	2	0	1
地球科学コース	4	7	1	0	0
情報科学コース	4	11	0	0	0
応用化学コース	3	14	3	1	1
海洋生命･分子工学コース	4	24	1	2	1
災害科学コース	0	10	1	0	0
合計	39	154	11	3	5
合計(%)	18.4	72.6	5.2	1.4	2.4

22. 21 で C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

○数学コース

・数学科プライマリが少ないと思う。

○地球科学コース

・地質調査の方法がわかりにくかったので、基本的な能力が身につくように簡単な授業を増やしてほしいと思う。

○応用化学コース

・他の大学に比べると専門分野のジャンルが偏っている。科学を勉強する上で教授の得意の分野だけでなく他の授業も増やしてほしい。一般教養にしても、逆に専門的すぎるものが多かったりするので、知識としての幅をもたせられないと思う。

○海洋生命・分子工学コース

・専門的な授業を増やしてほしい。

○災害科学コース

・ベクトル解析を中心に、物理数学の基本を丁寧に教えてもらえる授業が少ない。いきなり div、rot 、grad を知っていることを前提として進む授業があったりするので、内容の理解が追いつかないことがある。その分野に対する関心を失う原因の１つに十分成り得る。

【アドバイザー教員制度】

23. アドバイザー教員の指導･支援は適切でしたか。

A. 適切であった　　B. 概ね適切であった

C. あまり適切でなかった　　D. 適切でなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	25	21	1	0	0
物理科学コース	11	7	0	0	0
化学コース	11	5	0	0	2
生物科学コース	14	19	3	0	1
地球科学コース	7	5	0	0	0
情報科学コース	12	3	0	0	0
応用化学コース	11	10	0	0	1
海洋生命･分子工学コース	14	17	0	0	1
災害科学コース	6	5	0	0	0
合計	111	92	4	0	5
合計(%)	52.4	43.4	1.9	0.0	2.4

24. 総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか。

A. とてもよかったと思う　　B. おおむねよかったと思う

C. あまりよかったと思わない　　D. よかったと思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	18	26	3	0	0
物理科学コース	6	11	1	0	0
化学コース	3	12	1	0	2
生物科学コース	11	22	2	1	1
地球科学コース	5	6	1	0	0
情報科学コース	9	6	0	0	0
応用化学コース	7	13	0	1	1
海洋生命･分子工学コース	6	22	3	0	1
災害科学コース	7	4	0	0	0
合計	72	122	11	2	5
合計(%)	34.0	57.5	5.2	0.9	2.4

25. 理学部の教育や高知大学の教育全般について，意見があれば書いてください。

〇数学コース

・レポートに力を入れた授業や講義を取り組んでいただけると嬉しい。
・話す機会が増えるような授業があればよいと思う。
・他学部との関係を密にすると、学びが自由で豊かになると思う。
・アドバイザー教員制度がよかった。
・もう少し自習できるスペースが欲しかった。
・メディアの森が 21 時に閉まるので不便に感じたことがあった。
・履修状況や要卒単位数が足りているかどうかを分かりやすくしてもらいたい。

〇物理科学コース

・理学部や他の学部の教員の方々はほとんど楽しい講義を行ってくれておもしろかった。
・専門科目を取りにくかった。
・やりたいことを自由にできたのでとても貴重な時間を過ごすことができました。
・午前の授業数に比べ、午後の授業数が少なく感じる。その上、午後の授業は教職科目と被ったりしていることが多い。

〇化学コース

・コースによって、テスト数や授業の難易度、単位の取れやすさにバラつきがあるので気になります。
・大学は研究機関なので研究にお金をまわしてほしい。また、サイファインダーを復活してほしい。
・大学は研究機関であるにもかかわらず、研究設備が整っていない。
・自分の研究分野についていえば、SciFinder という情報検察ツールがないため、他の研究者との情報格差を強いられ、より良い研究が行えなくなっている。

〇生物科学コース

・時々、受講者の人数と教室の座席数が合ってない時があるので、もっと余裕を持った教室で授業を受けたい。
・喫煙所を無くすのは学長のエゴだと思った。

〇地球科学コース

・4 年生の 1 年間は特に充実した研究ができた。この研究テーマを与えて頂いた先生に感謝申し上げます。
・野外調査法など 1 回生の内から受講できる授業はあるが、2 回生の専門科目（前期）に野外に出る授業があった方がいい。

○応用化学コース

・「金が無い」と腐るほど聞いた。

・サイファインダーがないために、調べものに必要以上の時間を要した。また、必要な論文が利用できない場合があった。

・理学部に対して : 教育を充実させるために新しい NMR を数年後には準備できるようにした方が良いと思う。

一般教養に対して：先生方の専門を活かした授業はおもしろいと思うのですが、中にはその学部生でないと明らかに内容を理解できないものもあるので、もう少しとっつきやすい内容にしてほしい。（シラバスの授業内容を見て、受講するのが難しいと思うものがいくつかあった。）

○海洋生命・分子工学コース

・NMR を直してください。

○災害科学コース

・プログラミングを学べる授業を専門にいれてほしかった（研究で使うため）。